



福島県 小学校長会 会報

- 巻頭言…………… 1
- 教育ニュース
「学びの変革」の推進に向けて … 2
- 特集「たくましく生き ともによりよい未来を創っていく
子どもの育成」…………… 3～6
- 支会だより…………… 7～10
- ふくしま人この道に生きる… 11
- 表彰・各部だより…………… 12



未来へつなぐ

福島県小学校長会副会長 佐藤 勉

本校では、全校生が東京オリンピック聖火トーチにふれる体験を5月に行いました。聖火ランナーを務められた保護者の方のご厚意で実現したものです。

その中でも6年生は、聖火ランナーになった気分、聖火リレートーチをみんなでつなぐ体験を行いました。事前に思いや願いを綴ったメッセージをカードに記入してもらい、リレーをする際、紹介しました。

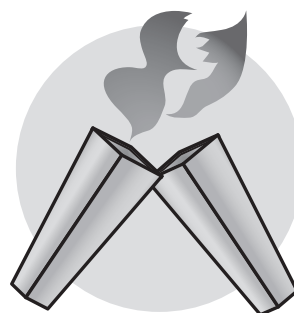
「コロナで苦しんでいる人、悲しんでいる人たちのためにみんなでコロナのかべを乗り越えよう」「コロナがおさまってたくさんの思い出がつかれますように」「コロナがおさまって6年生全員が笑顔で卒業できますように」等々。

子どもたちの思いや願いからは、コロナ禍における辛さを感じました。けなげさ、友を思うやさしさも感じました。

そして、今。コロナ禍、不自由な状況の中、

子どもたちはがんばっています。そして、先生方も。今後も油断なく対応を続けなければなりません。皆さんの英知を結集し、けなげにがんばっている子どもたちのため、この難局を乗り越えて参りましょう。

また、いじめや不登校、虐待やSNS問題等、生徒指導上の課題解決、新学習指導要領の理念を踏まえ「生きる力」を育むこと、働き方改革など、一步一步課題解決に向かって進めていくことが肝要かと思います。未来を創る子どもたちのために、教育の火を灯し続け、つないでいきましょう。



「学びの变革」の推進に向けて

福島県教育庁義務教育課長 石幡 良子

新型コロナウイルス感染症対策を継続させながらの教育活動は、創意工夫と決断の連続だと思います。そんな中、ICTを活用した学びの推進、英語教育の充実、小学校高学年における教科担任制の導入など、各校一丸となって取り組んでいただいていることに心から感謝を申し上げます。

さて、令和4年度から12年度までの本県教育の基本方針となる『第7次福島県総合教育計画』が策定されました。本計画は、福島のよさを大切にしたい「福島ならではの教育」と、一方通行の画一的な授業を個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく「学びの变革」を基本的な考え方としています。また、教員の力や学校の力を最大化する「学校の在り方の変革」についても掲げ、この二つの変革を両輪で進めていくことが大切だとしています。

「学びの变革」によって子どもたちの資質・能力を確実に育成するために、義務教育課が次年度行う主な取組を三つ紹介します。

1 授業の魅力化応援プロジェクト

(1) 支援チームによる訪問支援

全国学力・学習状況調査における算数・数学については、依然として課題が見られます。そこで、義務教育課は、ふくしま学力調査等の結果とリンクさせながら、学力を大きく伸ばした学校の取組を分析し、効果的な事例について広く紹介していきます。あわせて、次年度からは、『支援チーム』を立ち上げ、要請に応じて訪問する学校の調査結果から見えるよさと課題を整理し、客観的なデータ（エビデンス）を示しながら、授業力の向上と研究体制の支援を継続的に行って参ります。

(2) 小学校「教科担任制」の推進

次年度からは小学校高学年で教科担任制を本格的に導入します。可能な限り加配教員を配置したいと考えてはいますが、すべての学校には配置できません。

そこで、加配の有無にかかわらず教科担任制による専科指導を推進していくため、昨年12月に、教科担任制の導入に係るリーフレットを作成し、全小学校に配布しました。これまで推進してきた少人数教育によるきめ細かな指導体制の充実に加え、教科担任制による専門性の高い授業の充実に取り組んで参ります。

2 新時代の学びを支えるICT活用プロジェクト

ICTを活用した探究的な学びと情報モラル教育の推進については、引き続き両輪で進めていきます。しかし、教員の中には機器操作そのものに抵抗感をもっていたり、機器を使わせることが目的となり、授業や家庭学習の中での効果的な活用までには至っていなかったりする方もいます。

そこで、実践協力校における、授業のねらいを達成するためにICTを有効に活用した事例や、家庭学習における1人1台端末の活用事例を、地区別研究協議会において共有したり、義務教育課のホームページに掲載したりして、教員のICT活用指導力の育成につなげていきたいと考えています。

他にも、義務教育課がやるべきことはたくさんあります。これからも、学校現場に寄り添う気持ちを忘れず、校長会とは思いを常に共有しながら、義務教育課は学校を、子どもたちを、そして教職員を支援して参ります。

「未来を創っていく子どもの育成」のために 現職教育の協働的な学びで、資質能力を磨く

福島市立森合小学校 渡邊かほる

1 はじめに

教員が資質能力を磨くことができるのは「日々の授業」にある。授業は、教員のみが担い、専門性を発揮できるかけがえのない場であり、「日々の授業」を創造していく一連の営みこそ、教員にとってこの上ない喜びではないだろうか。本校は、その実践の場として、現職教育の充実を図ってきた。「未来を創っていく子どもの育成」を目指し、同僚性を発揮しながら、いかに「協働的な学び」を具現化して、資質能力を磨いていくか。特集テーマ副題「新たな教育活動の推進と教職員の資質向上」という視点で、本校の取組を振り返ることとする。

2 未来を担うたくましい子どもの育成のために

(1) 教科等横断的な視点とE S Dの考え方

【研究主題】

目的を実現するために必要感をもって学び、未来を拓こうとする子ども（3年次）
～E S Dの考え方を取り入れ教科等横断的な視点で組み立てた単元構想開発・実践を通して～

【研究内容】

- ① 6年間を通したテーマ設定「わたしたちのふるさと森合」
 - 地球規模で考える、地域(森合)活動の展開



研究授業

- 地域の人・もの・ことへの繰り返す関わり
 - ② 子どもが本気になって学ぶ単元構想＝学びの積み上げを意識した単元構想
 - 出合わせる人・もの・ことの吟味
 - 考え方、まとめ方などスキルの育成、向上を図る展開の工夫
 - 生活科、総合的な学習の時間と教科等で学習した内容及び育成した資質能力の関連
- 今年度で3年目の研究である。学習指導要領で示された教科等横断的な視点で、生活科・総合的な学習の時間を核とした単元構想の開発・実践という新たな教育活動に、いち早く取り組んだ。児童が教科等で身に付けた内容や資質・能力が、有機的に働くという成果があった。

E S Dの考えを取り入れることと、地球規模で考え地域活動を展開する授業づく

り・単元構成に課題が残り、次年度への改善点となった。

(2) 現職教育における協働的な学び

【2年】

生活科 「どきどき わくわく まちたんけん」
国語科 「たからものをしょうかいしよう」 他
学活(2) 「安全な道路の歩き方」
道徳科 「みつけたよ」 等

担任4名が、すべての授業を実施し、改善したものを研究授業として提案した。学年で協働的に取り組むことにより、研修が深まった。

【5年】

総合 「学ぼう放射線 これからの福島」
国語科 「和の文化について調べよう」 他
社会科 「わたしたちの生活と食糧生産」 等

総合的な学習の時間の展開の仕方や教科等で身に付けた内容や資質・能力の関連について学年で何度も話し合う協働的な学びで、各自の授業がバージョンアップした。

【低・中・高・特支ブロック】事後研究会

事後研究会は、ブロックごとに10名程度の教員が集まり、全員が発言する形で進められた。実践者であるので、自分事と捉えた見方や考え方、焦点化された話し合いで学びを深めた。

付箋を活用して意見を伝え合う方法がとられたが、教科の特質や系統的な見方で深め合えるように他ブロックの教員が参加できるシステムを構築したい。



事後研究会

3 むすびに

27名の学級担任と専科教諭4名、管理職2名が、授業づくりや単元構成について、ともに語り合った研修となった。教員の資質能力は、校内での現職教育や日々の授業実践による「協働的な学び」の中で発揮されていくことが、本校の取組を振り返る中で再認識することができた。本来教員には力があり、求められている資質能力は兼ね備えており、学びへの意欲も高い。「資質能力の向上」と鼓舞するより、資質能力を発揮する場、つまりは授業について語り合える時間を確保することが、今、求められていることではないだろうか。授業について語り合う時間を確保するために、校長自らが「何が大切か見極める働き方改革」を軽やかに進め、協働的な学びの一員として授業について語り、新しい教育活動に果敢にチャレンジするために学び続けることが「未来を創っていく子どもの育成」につながる。現職教育を中核に、お互いの資質能力を発揮し磨き合っていきたい。

ふるさとを誇りとする、強く たくましい人間の育成を目指して

伊達市立掛田小学校 渡邊かおり

1 はじめに

伊達地区では、公立小学校の適正規模・適正配置による統廃合が進められている。

本校においても、今年度は大石小学校が統合された。統合校として、地域素材の検討や連携方法の構築を行い、新たな伝統を築いていくことが今年の取組となった

2 未来を担うたくましい子どもの育成のために

(1) ふるさとに誇りを持つ児童の育成

目指す児童像に「大好き『ふるさと・仲間・自分』と誇れる子ども」を掲げた。霊山地域全体をふるさとと捉え、児童自身がふるさと“霊山”ととことん触れ合える教育活動を展開させた。

① ふるさとを体感させる。

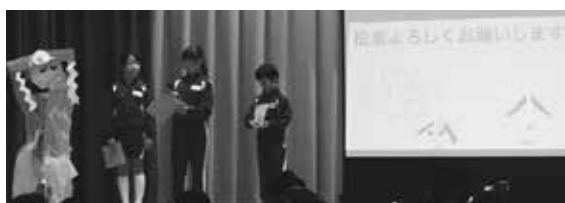
ふるさとと触れ合う目的を児童と話し合った。「養蚕に託された願い」「ご当地キャラクター制作」「地域に根付く稲作」「霊山の歴史と伝統の継承」と、年間テーマが決定した。

「伝統を引き継ぎたい」「霊山をもっと知ってほしい」「霊山の特産を発展させたい」テーマの話し合いは、何のためにふるさと学習をするのかを児童自身に気付かせるよい機会となった。

地域ゲストや関係機関に、活動の協力依頼をした。感染対策についての事前協議は、活動内容を児童の想いに焦点をあてて絞り込むことにつながった。その結果、蚕の飼育体験から桑の栽培計画に活動が発展するなど、児童のふるさとに対する興味関心がさらに広がった。

② ふるさとへの発信そして参画をめざす。

学習発表会でふるさとから学んだことの発信を行った。発表原稿やPC資料だけではなく、着ぐるみなどの衣装や舞台道具も児童が作成するなど、ふるさとでの豊かな体験はとて主体的な発信となった。



制作したご当地キャラクターをプレゼンテーションする児童

保護者や地域、伊達市への観光客にキャラクター選挙を実施した学年では、市長宛にキャラクターを市のマスコットとして採用し、地域づくりに活用してほしいことを依頼する手紙の作成を計画している。



道の駅に設置した
キャラクター投票箱

(2) 霊山の新しい教育の推進

教育委員会から提案のあった教育施策について、自校の教育目標をもとに具現化を図ってきた。

① 地域の幼稚園・こども園との連携を図る。

霊山地域の幼稚園・こども園と年4回の合同研修会を開催し、霊山地域におけるスタートカリキュラムの構築を目指す。

② 同学区内中学校との連携を推進する。

外国語科・外国語活動は、中学校の英語教諭が週1回来校し、T・T授業を行う。英会話や文構造だけでなく、生活場面での英語紹介など、系統性のある専門的な指導を可能にしている。

体育科は、小学生が中学校を訪問し、中学校体育教諭の指導のもと、中学生と一緒に身体づくり運動を行う。中学生のサポートを受け、身体の使い方を教わることで、校種を超えた信頼関係を築いている。

行事として小学1年から中学1年までの縦割り班による霊山登山も実施した。



小・中学生と一緒に活動した
霊山登山

3 むすびに

大石小学校で取り組んできた学習の継続を考え、本校の地域学習をふるさと学習として展開していった教育活動は、児童のより主体的な活動へとつながった。また、霊山地域全体で新しい教育を推進することで、校種間の連携がより密になり、児童の成長を長期的視野で捉えることができた。

本校の新たな伝統はスタートしたばかり。これからも、ふるさと“霊山”を誇りとし、大切なふるさとを守る、強くたくましい人間の育成を、霊山地域全体で連携しながら、続けていきたい。

学校教育の“Society5.0” ～「未来の学び」をデザインするために～

大熊町立熊町小学校・大熊町立大野小学校 佐藤 由弘

1 はじめに

東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故から11年が経過しようとする令和3年度末、大熊町立熊町小学校と大熊町立大野小学校の2校は、その長い歴史に終止符を打ち、令和4年4月より、義務教育学校「大熊町立学び舎ゆめの森」として、小中一貫教育という新たな形での学校がスタートし、令和5年4月には、大熊町大川原地区に新しい校舎が完成し、長年の願いであった地元へ帰還しての学校再開が実現する。

2 未来を担うたくましい子どもの育成のために

避難先の会津若松市での11年間、多くの先人たちが、震災と原発事故からの教訓を生かし、「未来を担うたくましい子どもたちの育成」という高い志を掲げて、復興教育を推進してきた。義務教育学校「学び舎ゆめの森」は、その11年間の教育を大切にしながら、更なる未来社会“Society 5.0”を見据えた「温故創新」が学校教育の真髄であり、現在、それに向けた教育改革を進めている。

(1) 学校教育のDX化

大熊町教育委員会
は、経済産業省「未来の教室」実証事業とEd-Tech導入補助金を活用し、AI型教材Qubena（キュ



AI型教材Qubenaによる学習

ビナ）を導入し「個別最適な学び」を実現している。一人一人の児童は、自ら課題を持ち自らの学習のペースで学習を進め、極少人数の異年齢集団の中で、お互いに教え合い学び合う授業が実現している。

(2) 「未来デザインの時間(総合的な学習の時間)」でSTEAM教育の推進

子どもたちが大熊ならではの学びである探究学習をベースにして、「総合的な学習の時間」では小・中学校いっしょに「未来デザインの時間」として学習を進めている。「未来デザインの時間」のテーマは“Happiness Making Project”、

すなわち「人を幸せにするために自分は何をしたらよいか？」を考えるという壮大なテーマを設定し、すぐには答えがでない、しかも正解が必ずあるとは限らないテーマに向かって、自分で考え、友達や先生たちと討論しながら、深掘りしていく学習(STEAM教育)である。



「未来デザインの時間」の学習

今年度は、「食プロジェクト」「アートプロジェクト」「科学プロジェクト」「ゆめの森プロジェクト」「平和プロジェクト」を設定し、各分野で活躍するプロフェッショナル「おおくま応援団」とのワークショップと対話を通して、プロの哲学に触れて、そこから自らのテーマを設定し、個々の探究学習に深めていく。

(3) 教職員の資質向上

OECD Future of Education and Skills 2030 プロジェクトでは、「未来の学校」における教員の役割は、いい教案をつくり、いいレクチャーを提供する人ではなく、その児童生徒ごとの個別の特性、状況、興味・関心を的確に把握し、個々の意欲や持ち味を最大限引き出すための「個別最適な学び」をデザインし、個々の児童生徒と向き合い、その疑問や質問に的確に応え、さらに動機づけ、日常生活、キャリア、進路についての個別の対話を重ね、仲間との熟議や協働を創発し、成功体験を積み重ねていくことをオーガナイズすることなどに重点が移行していくとしている。

この視点を踏まえ、本校では、株式会社リクルート HITOLAB（ヒトラボ）の「学習する学校」の知見をもとに、魅力的な教育カリキュラムを“自ら創造し提供し続けられる組織づくり”に焦点を当てた研修を行い、教職員の資質向上の取組を行っている。

3 むすびに

震災と原発事故の経験を決して風化させることなく、常に原点に軸足を置き、20XX年を見据えた未来の教育を「大熊町立学び舎ゆめの森」で実現していきたい。

自他の健康と 命の大切さを育むがん教育

いわき市立御厩小学校 林 弘美



児童が校舎に掲げた医療従事者への感謝のメッセージ
「ありがとう みんなでのりこえよう」

1 はじめに

「生涯に国民の2人に1人はがんにかかる」

御厩小学校は、令和2・3年度の2年間、小学校では県内唯一のがん教育研究推進校となり、研究を進めてきた。本校が立地する地域は、いわき市医療センター、福島労災病院、いわき市総合保健福祉センターなど市の医療機関が集中する地域であり、保護者にも医療従事者が比較的多い。研究推進に当たって、保護者や地域、関係諸機関との連携・協力が得られやすい環境であるとも言える。

改正されたがん対策基本法では、このような時代を生きる子どもたちが、健康教育の一環として、がんについて正しい知識をもち、予防し、がんになっても尊厳を保ちながら自分らしく生きることのできる社会、またがん患者を理解し、その心情に寄り添うことのできる社会を実現することを目指して、小学校においてもがん教育を推進することとされている。新学習指導要領では、中学校と高等学校においてがんについて学ぶことが明記されているが、小学校指導要領にはまだ明確な記述がない。私たちの研究は、小学校におけるがん教育がどうあるべきかを探るところから始まった。

そこで、研究を以下のように進めることとした。

研究主題

「自他の健康と命の大切さを育むがん教育」

- ① がんについて正しい知識を身に付け、他の病気についても理解を深め、健康の保持増進に努める。
- ② がんやがん患者への理解及び自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考える。

2 未来を担うたくましい子どもの育成のために

本校では、「①がんの基礎知識の習得」を体育科（保健領域）の授業で、そして「②自他の健康と命の大切さ、自己の在り方や生き方」については道徳科や学級活動の授業で取り組むこととした。さらにがん教育では、外部講師の活用体制の充実が挙げられている。そこで、県のがん教育推進協議会作成のがん教育外部講師リストや地域の関係諸機関から、小児がん専門の医師、薬剤師、保健師、助産師、がん経験者の方々の団体であるがんピアネットや患者会ピンクのリボンの方々を外部講師として招聘した。何度も打ち合わせや協議を重ね、がん教育や教科等のねらいに沿った授業の構築を目指した。



小児がん専門医師

私たちは、がんが児童にとって詳しく知らない病気であることが意外だった。かつては治療困難で死に至ることもある病気として、家族がかかっても大人が子どもには詳しく説明しない傾向があるためとも考えられる。児童は外部講師による先進治療や検診の重要性、がん経験者の命を輝かせる生き方の話を聞き、考えを深めていっ



ホスピタル・クラウンの薬剤師



がん経験者の方の話

た。また、がんの原因は細胞分裂の際のコピーミスと言われ、年を重ねるほどそのリスクは高まる。高齢化が進む現代において、がんやその他の病気との向き合い方を考え、患者と周りの人が理解し合い、共に生きることの大切さを学ぶことができた。

3 むすびに

図らずも、本校ががん教育研究を始める時期を同じくして、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がり、私たちは不安を募らせ、感染拡大防止に懸命になった。まさに、研究し、指導してきた健康を維持することの重要性を痛感した。学校における健康教育は、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していく資質・能力を育成することである。これからのがんとともに生きる社会を、子どもたちが自己の在り方や生き方を主体的に考えながら生き抜いてほしいと願っている。

福島 今年度の活動を振り返って

福島市立福島第四小学校 丹治 秀樹

1 はじめに

福島支会は、福島市と川俣町の国公立52校の校長により組織され、年6回の定例会を中心に6方部ごとの研修会も併せて実施してきました。コロナ禍の中、Web会議システムによる研修を取り入れながら諸活動を推進しました。

2 今年度の取組**(1) 東北連小福島大会**

紙面開催となった第61回東北連小及び第50回福島県小学校長会研究協議会福島大会の実行委員会として、大会要項・発表DVD・ふくしまの絆総合版を滞りなく東北6県の各支会へ発送することができました。

(2) ニーズ研修の実施

6月の第3回定例会は、新型コロナ対策として初のオンライン開催を試みました。ニーズ研修では、生徒指導部が担当して「不登校児童への対応」について事例発表、協議を行い、各校の取組を共有しました。12月の第5回定例会では、行財政部が研修を担当し、「働き方改革」の中でも「日課表の工夫」「関係機関等との連携」に絞って協議を行いました。

(3) 支会研究

行動基準レベル2の期間であった8月の第4回定例会は、6方部に分散集合してオンラインによる「支会研究協議会」として開催しました。東北連小福島大会発表DVD視聴による研修、また、昨年度から方部ごとに進めてきた研究課題についての発表・協議を行い、県研究部長から指導をいただき、充実した研修となりました。

(4) 人材の育成

小中校長協議会として新任校長・教頭を対象とした指導面・管理面、事務手続きに関する実務的な研修会を開催しました。また、ミドルリーダーや教頭を対象とした学校経営研修会を感染状況に応じながら紙面上と対面を組み合わせながら実施してきました。

3 むすびに

次年度は川俣町が1校となり、5方部に再編される中で新たな研究課題に取り組みます。今後も各会員が連携・協力し、地域や各校の特色を生かした学校教育の充実に努めてまいります。

北会津 今年度の活動をふり返って

会津若松市立城南小学校 大塚 進一

1 はじめに

本支会は、1市2町（会津若松市、磐梯町、猪苗代町）27名の会員で組織されています。コロナ禍でできることを模索しながら研修を深め、会員相互の情報交換や連携を大切にした活動をしています。

2 今年度の取組**(1) 研究の推進**

研究部を中心に3班構成で推進しており、1班は「Ⅲ指導・育成6研究・研修」2班は「Ⅱ教育課程5健やかな体」、3班は「Ⅴ教育課題9自立と社会性」について昨年度より継続的に研究を進めてきました。特に、3班は東北連小への発表であったので、DVDによる発表の提出をさせていただきました。

(2) 各専門部の活動**① 行財政部**

県行財政部の活動として、諸調査の実施、集約、報告を行い、関係団体等への働きかけを行ってきました。

② 研究部

3班編成による研究を推進しています。特に今年度は、東北連小福島大会へ向けての発表DVD作成、編集を中心に活動しました。

③ 広報部

年3回の広報「北会津」の発行をし、会員及び退職、転出会員の相互理解、情報交換等をしております。

④ 生徒指導部

県生徒指導部の活動として、諸調査の実施、集約、報告を行い、異校種、地域との連携を深めてきました。

(3) 中学校長会との連携

活動が制限される中でしたが、中学校長会との情報交換や意見交換で校長としての見識を高めています。

3 むすびに

コロナ収束まで、今後も様々な課題を解決しながら潤いのある教育活動の展開が求められることから、会員と共に悩み、英知を結集し、その解決に努力する校長会となるように、充実した活動に努めてまいります。

耶 今年度の活動をふり返って

喜多方市立第二小学校 田中 純

1 はじめに

本支会は、3市町村（喜多方市、西会津町、北塩原村）20名の会員で組織されています。これからの教育の在り方等の研修を深め、互いに情報交換しながら、各校の実態に応じたよりよい教育を目指し活動しています。

2 今年度の取組**(1) 研究の推進**

本年度は、三つの各研究班が、2カ年研究の2年次として、前年度の研究の成果を踏まえ研究を進めてきました。10月の第73回全連小研究協議会石川大会では、＜研究領域Ⅳ：危機管理「危機対応」＞について、発表支会として発表するところでしたが、紙上発表での開催となりました。また、「評価・改善」「研究・研修」については、希望支会として研究の成果をまとめました。

(2) 地区研修会

6月の研修会では、『幸せな会社創りを目指す～幸せな社員をつくり、幸せな会社をつくる～』の演題で、人材育成や地域との連携などをテーマとして、株式会社おくや代表取締役の松崎健太郎様に講演をいただきました。10月の研修会では、西会津町教育委員会教育長の江添信城様から「GIGAスクール構想で切り拓く、個別最適な学びと協働的な学び」を演題としたお話をお聞きしました。また、退職校長会について県公立学校退職校長会耶麻支部長の齋藤文泰様よりご説明いただきました。

(3) 各専門部会活動

県小学校長会部会と同様に、四つの専門部を設けて活動しています。

3 むすびに

会議や研修会を紙面開催とせざるを得ない状況の今年度でしたが、できうる限りの支会活動は実施できました。各学校で校長のリーダーシップのもと、子どもが「育つ」学校をつくるために、子どもが「育つ」授業をつくる、「やる気の心」に火をつける教育を推進したいと考えています。

両 つながりを深めて

会津坂下町立坂下東小学校 石見 勝則

1 はじめに

両沼支会は5町2村14校の会員で組織している。広範囲な地区で、小学校数が1～2校という町村が多いのも特徴の一つである。そのため、町村をこえたつながりを持って研鑽し、校長としての力量を高められるように努めていきたい。

2 今年度の取組**(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応**

- 各地教委との連携をとりながらも、感染防止への具体的な対応を協議し、児童、教職員、保護者も含めて感染防止のための対応策を考える。
- 各町村、各校での実情と情報を共有し、コロナ禍での学校行事等の在り方等の方向性を考えていく。

(2) GIGAスクール構想への取組

- 各町村でのGIGAスクール構想を受けての現状の把握と、授業改善への方向性を探る。

(3) 防災への取組

- 地震、風水害などの自然災害や交通事故、不審者による事案等に対応できるように、行政当局や交通安全母の会、見守り隊等の関係機関・団体との連携を密にする。

(4) 校長の人材育成面での対応

- 本支会は、本年度昇任した校長が6名であり、半数近くが1年目の校長である。地元出身校長が少なく、他地区からの赴任者も多い。校長会研究など、様々な面での初任校長へのアドバイスと校長同士の横のつながりを強化していく必要がある。
- 学校経営研修会等、教員の研修の内容・方法等を改善しながら、ミドルリーダーを育て、次代を担う管理職の育成に取り組む。

(5) 支会研究の充実

- 県小学校長会の主題、視点に基づきながら、支会の現状と課題を見つめた計画的・継続的な研究実践を推進する。

3 むすびに

新型コロナウイルス感染症に立ち向かい、新しい学校の生活様式を踏まえた学校運営ができるよう校長が連携し合い、子どもたちの豊かな人間性の育成に努めていきたい。

南
会
津

今年度の活動をふり返って

只見町立朝日小学校 米畑 健一

1 はじめに

南会津支会は、4町村（南会津町、下郷町、檜枝岐村、只見町）13名（檜枝岐村は小中兼務で中学校籍）の会員で構成されています。中学校と合わせても20名と少人数の支会なので、小中一緒に活動することも多く、結びつきの強い支会かと思っています。今年度も学校間の連携を密に、課題の解決と学校経営の充実のため、活動しています。

2 今年度の取組

(1) 研究活動の充実

本支会は、第2年次の研究主題を受け、研究の推進を図ってきました。第2分科会「評価・改善」の発表支会として、学校経営の中で「活用する人事評価」を推進していくための、校長として果たすべき役割と指導性を明らかにした実践についてまとめるとともに、希望支会第10分科会「社会との連携・協働」では、「学校が地域にできること」を推進するため、双方向の連携や体制の構築に向けた工夫について研究を行ってきました。

(2) 専門部会、各種教育団体の活動の充実

本支会では、専門部会として「行財政部、研究部、生徒指導部、広報部」の四つの部会を設置し、県との連携を図りながら推進してきました。また、小教研や特別支援教育研究会、実務研修会等の各種教育関係団体の活動も積極的に推進し、人材育成にも努めてきました。

(3) 小・中合同研修会

今年度は、会津大学コンピュータ理工学部上級准教授の中村章人先生を講師に招き、「情報モラル教育について」の講演をいただき、その後、グループ協議を実施し、研修を深めました。また、福島大学附属中学校副校長の菅野重徳先生を講師に招き、「附属中の働き方改革」について講演をいただき、働き方改革についての意識を高めることができました。

3 むすびに

今年度も新型コロナウイルス感染症の流行や講師不足、児童数の減少による複式学級の増加など、学校を取り巻く状況はますます厳しくなっています。そういった中ではありますが、小規模校のメリットを存分に生かし、地域や関係機関と深く連携しながら、教育実践の充実に努めていきたいと考えています。

相
馬

今年度の活動を振り返って

南相馬市立原町第二小学校 伏見伸一郎

1 はじめに

相馬支会は2市1町1村の25校の会員で組織されています。今年度は新しく10名が入会して構成メンバーは大きく変わりましたが、各地区会長を中心に協力体制を整え、活動を進めています。

2 今年度の取組

(1) 研究の推進

本支会では、第4分科会「豊かな人間性」、第7分科会「学校安全」、第10分科会「社会との連携・協働」について3班に分かれ、研究を進めました。そのうち東北連小福島大会における発表は第10分科会【視点2】の「幼保・小・中等との連携と円滑な接続のための組織的な取組の推進」を担当しました。担当グループ8校で昨年度から取り組んできた研究をまとめ、成果と課題を明確にしながら、発表準備を進めました。残念ながら直接対面による発表ではなく、撮影した動画によるDVD収録となりましたが、支会内の2回の研修会で内容を吟味し、連携・接続における校長の果たすべき役割と指導性を示すことができました。

(2) その他の研修

10月第2回研修会の折に、生徒指導部長より生徒指導部調査結果を基に本地区内の児童の現状と対応策について報告していただきました。特に、ネット・SNS利用において、利用率の高まりや利用時間の長時間化が見られ、児童や保護者への効果的な対応策を講じる必要性が提案されました。

11月小中学校協議会においては、県浜児童相談所南相馬相談室の中島紀子様を招いて、児童虐待について講話をいただき、地区内での現状を基に具体的な対応等について話し合いました。

3 むすびに

本来であれば会員同士が時間をかけて話し合う場を十分に設け、それぞれの学校経営に役立つ場としていきたいところです。しかし、コロナ禍のためコミュニケーションに時間を割けない状況が続いています。互いに悩んだときに気軽に相談できる温かな人間関係を意図的に作れるよう、会の持ち方や研修の仕方などを工夫し、会員相互の和を大切にしていきたいと考えています。

双葉 今年度の活動を振り返って

浪江町立なみえ創成小学校 高田 英世

1 はじめに

本支会は、震災前は17校17人の会員でしたが、現在は統廃合が進み、12校8人の会員で組織されています。学校の所在地も双葉郡以外に、会津若松、いわき、三春とわかれていますが「双葉は一つ」を合い言葉に、活動に取り組んできました。

2 今年度の取組**(1) 研修会等****① 総会【4／8(木)学びの森】**

活動計画の確認、役員選出及び組織編成

② 第1回研修会【5／25(火)オンライン】

ア 行財政部、生徒指導部、広報部の報告
イ 研究部からの説明及び「知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方」について2グループに分かれての研究協議

③ 第2回研修会【7／9(金)川内小中学園】

ア 行財政部、生徒指導部、広報部の報告
イ 支会研究大会
研究課題「知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントと校長の在り方」
視点「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善」

④ 第3回研修会【12／3(金)学びの森】

ア 行財政部、生徒指導部、広報部の報告
イ 講演「双葉郡の復興と創生に向けた校長のあり方」相双教育事務所長 埴広治様

(2) 交流**① 県小学校長会事務局との懇談会【オンライン開催】****② 東京電力福島第一原子力発電所・被災校等視察及び懇談会**

震災から10年が経ちましたが、被災地の現状について、理解してもらう良い機会となりました。

3 むすびに

少ない人数ながら、双葉の校長会としてできることに取り組んできました。今後も組織の横のつながりを生かして活動していきたいと思います。

いわき 今年度の活動を振り返って

いわき市立平第五小学校 大石 正文

1 はじめに

本支会は、いわき市63校（休校1校）59名の会員で組織されています。今年度は、『ともに学び、考え、行動する校長会－たくましく生き ともによりよい未来を創っていく子どもの育成に向けて－』を活動目標に掲げ、一丸となって活動に取り組んできました。

2 今年度の取組**(1) 新型コロナウイルス感染防止への対応**

感染が拡大する状況の中始まった令和3年度。4月に市小学校長会臨時役員会を開き対応について協議しました。ここでは、今年度の市小学校長会主催行事について、市陸上競技大会各ブロック大会、各方部音楽祭は昨年に引き続き中止とし、理科作品展、児童造形作品展、書写作品展については、作品募集、審査のみ行い作品の展示は中止することとしました。そのほかにも、修学旅行やプール学習など、各学校での行事や教育活動の対応方針について話し合いを行いました。

(2) 今後の市小学校長会主催行事の在り方の検討
さらに、9月より次年度以降の主催行事の在り方について検討を重ね、方向性を11月に決定しました。これは単に、コロナ禍での「学校における新しい生活様式」に基づく行事の在り方を探ることだけではなく、2020年度に全面実施された学習指導要領の趣旨の実現や、GIGAスクール構想への対応、そして子どもと向き合い、本来の業務に専念することができる時間の確保に向けた教育活動の選択と集中、教育課程のスリム化を図るためという前提に立って検討しました。「コロナ禍対応には、課題も成果もあり、単にコロナ前に戻すことなく、成果を今後に生かす」という願いを込め、長年の懸案となっていた課題についても大胆な見直しを図りました。

3 むすびに

今年度も児童の健康と安全を最優先に考え、各部長のリーダーシップのもとの活動を進めてきました。市全体の取組とともに、感染に関係した学校への助言やサポートも大きな取組のひとつとなりました。今後も、校長一人一人が希望と矜持をもって学校経営できるよう、組織を生かして取り組んでまいりたいと思います。

大好きな地域のため 子どもたちのための“おせっかい”

浅川町婦人会会長 生田目 和世 さん

稼業である和牛の飼育を行いながら、浅川町のため、地域の子どもたちのために長年にわたってボランティア活動などをされてきた浅川町婦人会会長、生田目和世さんにお話を伺いました。現在、子どもの登校時の見守りボランティアをはじめ町のため、子どもたちのために活躍されています。これまでの地域での活動や、その原動力となっている思いなどを伺いました。



ーこれまでの活動の経緯をお聞かせくださいー

地域や学校のために様々な活動をしてきた大きなきっかけは、子どもが通う学校のPTA活動で副会長をさせていただいたことです。子どもたちのために何か役に立てることがとても嬉しかったです。また、本町出身で、がん研究の先駆者である吉田富三医学博士の顕彰会に携わっています。本町の誇りである富三先生のご功績やお人柄を通して、浅川町の魅力をたくさんの人に知っていただいたり、自分が研修を受け、知識を広めることができたりした体験が、人の役に立つボランティアなどの活動を積極的に行うきっかけになっていると思います。

ー信条としていたり活動の原動力を教えてくださいー

「大好きな浅川町を良くしたい！」それにつきます。生まれ育ったふるさととはとても愛おしいもの。ふるさと浅川町を、もっともっと良くしていきたい。そのために婦人会としても、こども園の餅つき大会のお世話や、町ロードレース大会のお手伝いなどを行って、町のため、子どもたちのために活動しています。町の宝である子どもたちを自分たちで守る。それが大事だと思っています。

両親の影響で、幼い頃から歴史が好きでした。妹とよく「浅川町にも魅力的な歴史があるのにね。」と話していました。それが、「狛犬」です。現在は、私の妹（※福島県南地方狛犬ネットワーク会長、相田道代さん）が、狛犬の魅力を伝えながら浅川町の素晴らしさを広める活動をしています。私も妹も、浅川町を良くしたいという共通の思いで活動しています。

ーいま課題と感じていること・これからしていきたいことはありますかー

“おせっかい”をしたいです。昔は、結婚相手にしても、何をするにしても世話をやく人が周りにいました。子どもは宝です。浅川町も少子化で子どもの数が減り、学校も減り、寂しい限りです。祖父母と暮らす家庭も減っています。だからこそ“おせっかい”し合える人間関係が大切です。大好きな浅川町で子どもを育てる人が増え、浅川町を愛する人が増え、町の宝である子どもたちの笑顔が増えるために何ができるかを考えて、これからも素敵な“おせっかい”をしていきたいと思っています。

プロフィール（現職）

- | | | |
|------------|----------------|---------------|
| ・浅川町婦人会会長 | ・浅川町女性団体連絡協議会長 | ・浅川町交通安全母の会会長 |
| ・吉田富三顕彰会理事 | ・浅川町社会教育委員会委員 | ・浅川町防犯協会会員 |

（取材 浅川町立浅川小学校長 吉田 智）

秋の叙勲

～おめでとうございます～

令和3年度の「秋の叙勲」が発表され、本会元会員の叙勲者は次のとおりです。
 なお、規定により祝電をお送りいたしました。

☆瑞宝双光章（2名）

芳賀 忠夫 様 元会津若松市立鶴城小学校長
 （70歳）

工藤 博 様 元郡山市立芳山小学校長
 （70歳）

祝 表 彰

—表彰おめでとうございます—

◆文部科学大臣教育者表彰

佐藤 秀美（福島3）

◆福島県教育委員会表彰

○学校教育功労者（8名）

佐藤 秀美（福島3） 佐藤 則之（二本松南）
 永瀬 功一（須賀川一） 石本 浩一（謹 教）
 秦 尚志（猪苗代） 高橋 弘之（田 島）
 林 和樹（中央台東） 坂本 貴洋（小名浜一）

○へき地教育功労者（1名）

湯浅伸二郎（瀬 川）

◆永年勤続表彰（19名）

齋藤 亮一（飯 野） 本多 康弘（国 見）
 小野 明彦（安達太良） 草野 節生（原 瀬）
 深谷 麻紀（糠 沢） 丹治 達也（海老根）
 吉田 智（浅 川） 岡部 史則（古 殿）
 木戸美智子（信夫二） 齋藤 学（姥 堂）
 仁科 篤弘（新 鶴） 齋藤 博（伊 南）
 天野 圭（旭 田） 矢吹 隆浩（楡 原）
 村上 潤一（駒ヶ嶺） 横山 雄彦（楡葉南）
 林 裕一（豊 間） 高橋 健也（夏 井）
 渡邊 信貴（湯本二）

— 令和4年度行事予定表(案) —

月	本 会 大会・理事会等	総務・経理	行 財 政	各 部 会 研 究	生 徒 指 導	広 報
4	合同事務局① 常任幹事会① 合同開会式 小理事会① 合同幹事会① 28木 11月 事務局 20水 パルセイイざか グリーンパレス	総務幹事会① 27水 事務局	幹事会① 合同幹事会① 22金 事務局 28木 事務局	幹事会① 21木 事務局	幹事会① 26火 事務局	
5	合同事務局② 常任幹事会② 31火 事務局	総務幹事会② 31火 事務局	合同部長会① 13金 教育会館	部長会① 9月 教育会館	合同幹事会① 幹事会② 部長会① 10火 事務局 24火 教育会館	
6	合同理事会① 小理事会② 相馬・双葉支会との懇談会 10金 グリーンパレス 29水		幹事会② 合同幹事会② 13月 事務局 21火 事務局	幹事会② 1水 事務局		幹事会① 幹事会② ※要覧発行 ※会報255号発行 2木 事務局 15水 事務局
7	臨時合同事務局会（要望打合せ） 事務局		合同代表部長会① 5火 教育会館	幹事会③ 4月 事務局	幹事会③ 13水 事務局	
8	合同事務局③ 常任幹事会③ 各種団体との懇談会 合同理事会② 小理事会③（支会会長） 県教育庁との懇談会 2火 事務局 17水 グリーンパレス	被災地視察打合 5金 事務局				
9	要望活動事前打合せ 要望活動 被災地視察 上旬 事務局 上旬 県庁 15木16金 原免他				合同幹事会② 幹事会④ 5月 事務局	
10	中間監査 4火 事務局	中間監査準備会 3月 事務局		幹事会④ 11火 事務局		
11	合同事務局④ 常任幹事会④ 21月 事務局			幹事会⑤ 部長会② 9水 事務局 24木 教育会館	幹事会⑤ 合同部長会① 11金 事務局 17木 教育会館	
12	合同理事会③ 小理事会④ 1木 パルセイイざか					
1	各種団体との懇談会 6金 事務局		幹事会③ 合同幹事会③ 13金 事務局 24火 事務局	幹事会⑥ 部長会③ 6金 事務局 18木 パルセイイざか	幹事会⑥ 代表部長会① 20金 事務局 26木 事務局	
2	合同事務局⑤ 常任幹事会⑤ 合同理事会④ 小理事会⑤ 小常任理事会① 6月 事務局 21火～22水 あづま荘		合同部長会② 幹事会④ 合同幹事会④ 8木 パルセイイざか 13月 事務局 16木 事務局	幹事会⑦ ※支会大会報告書発行 28火 事務局		幹事会③ 幹事会④ 1木 事務局 14火 事務局
3	合同幹事会② 会計監査 退職校長感謝会 2木 グリーンパレス 8水 事務局 ～各支会計画～	監査準備会 2木 事務局				※会報256号発行 ※あゆみ発行

編集後記

会報254号をお届けします。

ご多用の中、玉稿をお寄せいただき、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

- 発行 福島県小学校長会
 〒960-8107 福島市浜田町4番16号 富士ビル2F
 電話024(534)5411
 会長 佐藤秀美（福島市立福島第三小学校）
- 編集 坂本真理・吉田牧子・唯木常晴・島田祥司・本多康弘
- 印刷 有限会社吾妻印刷

(一財)福島県教育会館 事業ご案内

福島県教育会館の下記事業につきまして、
 ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。

- 夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ●貸し会議室
 ●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 （教育関係者は半額）

福島市上浜町 10-38 office@kyouikukaikan.jp
 TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208